

荒川スポセン スポーツ俳句 作品大募集



投句期間：令和6年9月29日（日）～10月14日（月）
掲示期間：令和6年9月29日（日）～10月27日（日）

【募集内容】

テーマ①：スポーツ・運動

オリンピック、世界大会、国民体育大会、全国障がい者スポーツ大会等の種目のほかにスポーツ、運動に関する内容であればであればなんでも可。五・七・五の十七音で表現することを忘れずにね！

『スポーツの句』とは、スポーツの一場面を「五・七・五」の定型で表現した俳句です。水泳（夏）やスキー（冬）など季語になっているスポーツを詠むことも、テニスやバスケットボールなどの季語ではないスポーツを季語とともに詠むこともできます。また、スポーツの句は、観戦も含まれます。

テーマ②：自由

普段の生活、学校のこと、家族のこと、好きなことなんでも可。
五・七・五の十七音で表現することを忘れずにね！

【応募資格】

どなたでも

【応募の流れ】

1. エントランスホールに置いてある「スポーツ短冊」に記入
2. 作品を1階総合受付へ（参加賞ゲット！）
3. 作品を掲示スペースに貼ろう！思いついたら二句、三句と貼ってみよう！
※ただし、参加賞のお渡しは1人1回までです。

【その他】

掲示期間に様々な表彰を行っていきます。お楽しみに♪

俳句のまち あらかわ

荒川区は松尾芭蕉の『奥の細道』旅立ちの地としてゆかりがあり、平成27年に「荒川区俳句のまち宣言」を行いました。松尾芭蕉だけでなく、小林一茶や正岡子規など多くの文人が俳句を詠み、区内には奥の細道矢立初めの地である南千住をはじめ多くの句碑が建立されています。

「奥の細道」とは、松尾芭蕉が46歳の時に弟子の河合曾良と江戸を出発して、東北から北陸を経て美濃国の大垣までを巡った旅を記した紀行文です。
内容を簡単に説明すると、たくさんの名所旧跡を巡り、その場所で詠んだ俳句とその地域の感想をあわせて記したものが「奥の細道」です。この旅は、およそ155日間、2400kmの道のりでした。
「奥の細道」というタイトルの意味は、東北への細い旅の道という意味です。
奥は東北地方、つまり“みちのく”をさします。細道は文字どおり細い・心細い・たよりにならないような道ということです。
松尾芭蕉の旅の目的は、2つありました。
1つは、俳句を詠むこと、もう1つは、松島や平泉、象潟（きさかた）など、和歌に出てくる名所旧跡を巡ることでした。

「行春や 鳥啼魚の 目は泪」（ゆくはるや とりなきうおの めはなみだ）

この句を矢立初めの句として南千住から生涯をかけ
松尾芭蕉は「奥の細道」へと旅立ちました。
江戸を出発して大垣まで、「奥の細道」には62句の俳句が収められています。

どうやってつくるの？

俳句は、「世界で最も短い詩」と言われています。わずか17音という限られた文字数の中で、自分の思いや感動を表現します。そのためには、余分な言葉をそぎ落とし、感動を伝えるのにふさわしい言葉を選び抜くことが求められます。俳句の創作体験を通して、語彙を豊かにしたり、言葉の使い手としての感覚を磨いたりすることができます。

5・7・5のリズム

俳句の初めの5音を上五（かみご）、真ん中の7音を中七（なかしち）、最後の5音を下五（しもご）と呼びます。
たとえば、今あなたに気持ちの良い風が吹いてきたとしましょう。この風は、「夏の風」「南風」という季語です。「夏の風」を上五に置くだけで、もう俳句の3分の1ほどができあがってしまうのです。

「季語」で詠む

「季語」とは、俳句の季節を表す言葉です。今回はスポーツ俳句なので、まずはどのスポーツをネタにするか考えてみましょう！

ネタが決まったらそれはどのような場面だったか、それに対して自分はどんな気持ちになったかを思い出して考えてみよう。思いつかない場合はテーマから連想してみよう。
例：「運動会」だったら、「リレー」や「大玉転がし」「応援合戦」など。

いくつか思い出したらそこから自分が一番伝えたい部分を決めよう！
例：「リレーが一番きつかったな」「応援団も盛り上がったな」

先ほど書き出しておいた季語と自分が一番伝えたい場面や、「嬉しかった」とか「悲しかった」と言った気持ちを組み合わせ、5・7・5の形に当てはめてみましょう。

季語や伝えたいものの場面、気持ちを組み合わせると、「何か違和感を感じるな」と思った人いませんか？

もしかしたら、5・7・5の形にしっかり言葉が当てはまっていないのかもしれない。

その場合は、同じ意味を持った別の言葉を調べたり考えたりして書きましょう。

例えば「夏」という言葉にも「初夏」や「猛暑」などと言った言葉もあります。是非、似たような言葉をさがしてみてください。

俳句は自分の思ったこと伝えたいことを短い文の中でどう表現するかによって変わってきます。ぜひこの機会に俳句で想いを伝えよう！